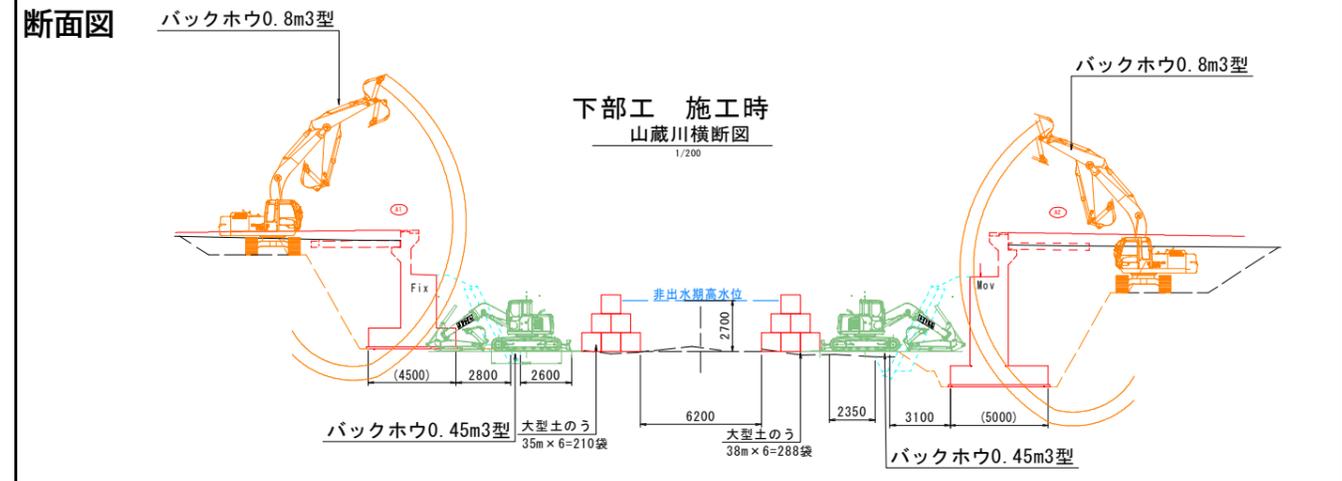
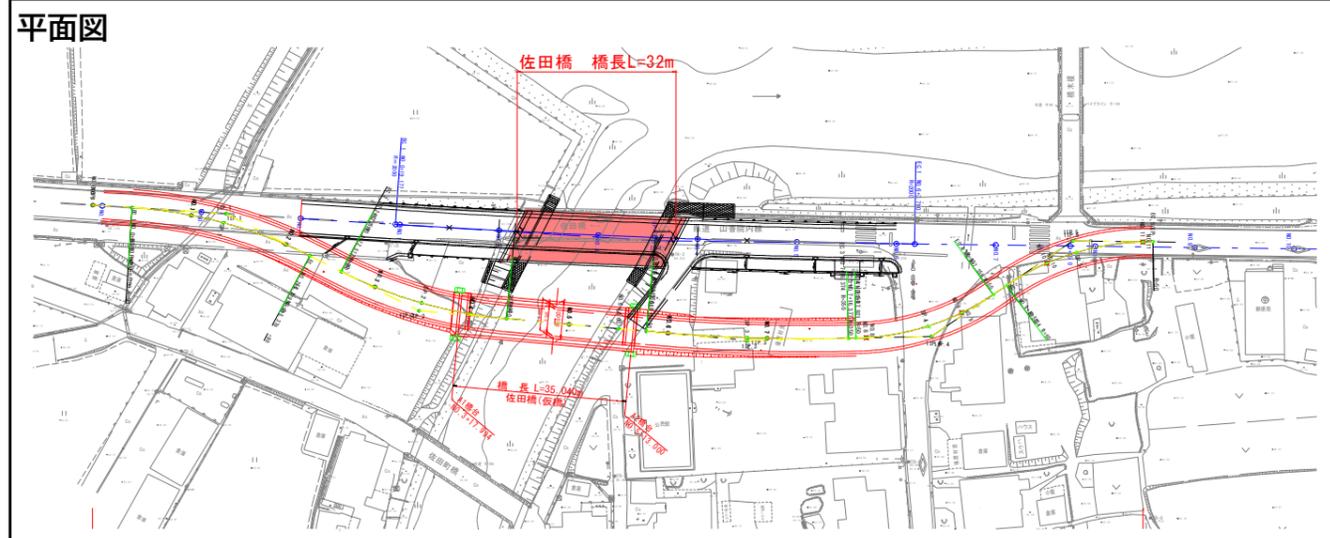




- 現地条件・課題(施工上の制約、設計のコントロールポイント)
- 佐田川・山蔵川合流部における施工
 - 仮設道路にて迂回路および仮橋の設置
 - 旧橋上部工撤去はブラケット足場にて出水期施工を予定(橋梁点検車予定)
 - 旧橋撤去および上部工仮設時は大型クレーン(60t~120t)を使用
 - 下部工・護岸工は両岸同時施工
 - 1非出水期施工(11月~5月)で計画
 - 支障物件(電柱)

- 設計条件
- 旧橋橋体を河川に落とさない
 - 仮締切高さは、非出水期 過去5年間の最大流量を対象とした
 - 非出水期施工で河川高水位の高さ(橋台縦壁)まで施工する。
 - 1非出水期施工(11月~5月)
 - 仮締切 大型土のう予定



- 施行者からの意見対応方針
- 改善事項
 - 河川内掘削作業のための重機等の搬入は、佐田橋から約100m下流にある既存斜路から河川内を自走可能できる。→ 斜路設置計画を不要とする。
 - 旧橋下部工の撤去は、下部工の規模等から油圧ブレーカーやコンクリート圧砕機による解体が可能である。
 - ワイヤソーによる下部工解体を油圧ブレーカーやコンクリート圧砕機に変更する。
 - 護岸工の両岸施工は、仮締切内の施工スペースが狭い。
 - 護岸工については片岸施工とし作業スペースを確保する。
 - 確認事項
 - 交通誘導員の設置
 - 迂回路設置時は榎木橋付近に交通誘導員の設置を明示する。
 - 家屋事前調査
 - 油圧ブレーカー等の使用に際し、必要な範囲について家屋事前調査を実施する。